



## 初心に戻ってみました

ウィルあいち交流ネット参加グループ

「平成いちご会」は、平成15年度愛知県男女共同参画社会支援セミナーの修了生で結成したグループです。(名前の由来は、平成15年→平成一五年→平成いちご年→「平成いちご会」となりました) 結成して9年目。33名いた会員は14名になりました。10年経てば、それぞれのライフスタイルも変わりグループ自体も変化して当然ですし、それぞれの活躍があればこその変化だと思っています。なので、毎年、幹事を交代しながら、年に1度、近況報告会として集まり、その度に「平成いちご会」の継続について話し合いをしながら現在に至っています。「交流ネット」への参加も、その都度確認をしながら代表を送っている次第です。

さて、時を巻き戻し、物持ちがいいのか、当時の講義をメモしたノートと報告書を見つけたので読み返してみました。懐かしもあり、忘れてしまっていることもありましたが、ふと目についた文章がありました。第2回目、井上匡子氏の「ジェンダーについて」の講義です。それは、緑のボールペンで書かれてありました。以下転記します。

「つまり、意識的／無意識的に一定の生き方を押し付けたり、推奨したりするのではなく、あるいは、制度が新たなジェンダー構造を再生産するのではなく」

「個人の選択を応援し、実現をバックアップする制度、政策づくりを進めていく。そこにジェンダーの視点を取り入れていく」

「結婚したい女性」「結婚を望まない女性」「結婚より仕事を続ける女性」「結婚しても働きたい女性」「結婚したら仕事を辞める女性」「子どもをほしいと思う女性」「子どもを望まない女性」「子どもを産む女性」「子どもを産みたくても産めない女性」「子どもを産んでも仕事を続けたい女性」「子どもと時間を共有したい女性」「子どもがある程度成長してから仕事に復帰したい女性」「社会活動をしている女性」「社会活動をしたいと思う女性」・・・etc。

つまり、女性の生き方も様々であり、一定の生き方を押し付けたり、推奨したりするのではなく、その生き方を応援し実現できるバックアップが必要なのです。そして、男性も同様なのではないでしょうか。まさしく、人は、己の人生を生きています。それは、ひとりとして同じ人生ではありません。

男も女も、自分が望み、自分らしく、精いっぱい生きることができる社会にしていくことが男女共同参画社会であり、改めて、「交流ネット」から、そのメッセージを発信していけたらと初心に戻る私がいまいました。

平成いちご会 明石雅世

- \*さわらび会
- \*メンズリブ名古屋
- \*ア・コール
- \*女性学'98の会
- \*IPA
- \*メディアの会かたつむり
- \*ウィル10
- \*A・B・C・Net
- \*C・C・C
- \*グループ・キートス
- \*クラリネット'99
- \*2000女性学の会
- \*ウィル2000
- \*I. W. L
- \*ウィル・ミニ・ボックス
- \*めだかっこ
- \*ウィルD○2002
- \*平成いちご会
- \*きらら2005
- \*サーティネット '05
- \*ベリーズ18
- \*Step07
- \*トライアングル '08
- \*まちづくりファシリテーター勉強会
- \*Fem.'09
- \*Amelie'10
- \*なでしこAICHI

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。

## 男女共同参画は、日本の希望 (1) 男女共同参画・発展途上国 日本 中央大学・教授 山田 昌弘

「地球上で女性を侮った国は発展しませんでした」。これは、昨年上演された宝塚歌劇宙組公演SFファンタジー『銀河英雄伝説』の中のフレーズです。伯爵令嬢ヒルダが銀河帝国初の軍人を志願し提督が我が国には女性の軍人などいないと難色を示した時に、彼女が発した言葉です(註1)。註1:『銀河英雄伝説』田中芳樹原作、小池修一郎脚本。2012年宝塚歌劇宙組公演。主演、凰稀かなめ、美咲凜音。この発言は原作にはないので、小池氏の創作だと思われる。(私は「男なのに」宝塚歌劇ファンである。歌舞伎も好きだが、女性が男性を演じ、男性が女性を演じる文化がある日本に生まれてよかったと思っている)

日本社会が女性を侮っているとは思いませんが、女性がなかなか活躍できない環境にあることは確かです。2012年の世界経済フォーラムのレポートによると、日本の男女平等度は、135カ国中101位、特に、経済分野では102位、政治分野では110位となっています。諸外国では女性大統領、女性首相は当たり前なのに、日本では国会議員比率も最低レベルです。経済界を見ても、諸外国では管理職比率が30-40%程度の国が多いのに対し、日本では管理職比率も10%程度。役員比率に至っては、欧米主要国15%程度なのに、日本ではわずか1.4%、下にはアラブ産油国があるだけです。

日本は昔からこうだったのでしょか。そうではありません。日本では、西暦593年推古帝が即位して以来、何人も女帝が出、政治に大きな力をもった伝統があります。673年、壬申の乱に勝利した天武天皇即位の時の詔により、女性も朝廷への出仕、つまり公務員への登用が許されています(註2)。古代でこれだけ女性が活躍した国は、日本以外では古代エジプトくらいでしょう。日本は、昔は男女共同参画「先進国」でした。しかし、今では、男女共同参画「発展途上国」になっています。註2:天武天皇詔「女子の出仕は、未婚、既婚問わず、有夫であろうと寡婦であろうと、その歳の上下を問わず、これを許す」(橋本治『双調平家物語 第三巻』より)(中国では4000年の歴史上女帝は一人だけ。フランスでは女王はいなかった)

私は、女性が活躍できていないことが、ここ20年の日本の経済停滞の1つの原因だと考えています。男女の就業率ギャップ指数というのがあります。男性が女性に比べてどれだけ多く働いているかを指数化したものです。イタリア、ギリシア、スペインなど財政危機が起きている国ほどこの数値が高く、北欧やカナダなど財政健全国ほどギャップが小さくなっています。日本では、20年前に比べれば多少は働く女性、管理職女性は増えています。ただ、その速度は、諸外国に比べたいへん遅いのです。女性の活躍がなければ、このグローバル化した世界経済の中での発展が見込めないのです。

私は今、シンガポールや香港で経済的に活躍している日本人女性にインタビュー調査をしています。彼女たちは「日本企業では居場所がなかった」「ここではのびのびと働きながら子育てできる」などと語るのです。日本でなかなか女性が活躍する環境が整備されない間に、日本の一人あたりGDPは、アメリカや北欧に追いつくどころか、シンガポールに追い抜かれ、香港や台湾に並ばれようとしています。今、女性大統領を出した韓国が国を挙げて男女共同参画に取り組んでいます。このままだと、男女共同参画だけでなく、経済的にも発展途上国になりかねません。

女性の経済的活躍の推進は、単に女性にとってメリットがあるばかりではありません。日本経済、社会、家庭、そして男性にとっても必要かつ不可欠なものになっているのです。

内閣府 広報誌「共同参画」4・5月号より

### [編集後記]

昼夜の寒暖の差があり、体調を崩しやすいので気をつけてください。

6月に女性の政策・方針決定過程への参画拡大を目指してセミナーを開催します。是非、ご参加ください。 S.I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団

企画協働課協働担当